

# 子育てにおける親役割達成感と心理的 well-being に関する研究

学校教育専攻

幼年発達支援コース

寺菌 さおり

指導教員 浜崎 隆司

## はじめに

Baltes(1987)が生涯発達の視点から発達を獲得と喪失のダイナミックな過程と示すように、親にとって子育て期は子どもの誕生によって親自身の役割システムを変容させていかなければならない時期であろう。特に子どもの反抗期は「親子の問題解決場面」でもあり、この時期の親子関係にアプローチすることは親子で互恵的な関係性のあり方を学習しあい、今後の人間関係のあり方に影響を及ぼすことが考えられた。そこで本研究では子育て期の親子の関係性から親の心理的な発達を捉えるために親役割の質、親役割達成感に着目し、親役割達成感を高める要因を検討した。検討にあたっては親子の関係性に質的な変化がみられる子どもの自己主張期に焦点を当て、まず子どもとのやりとりで感じたストレスの意味を捉えた。また、親役割達成感が高まる要因として親の個人的特性としての共感性と行動傾向としての育児ストレスコーピングに着目し検討した。さらにポジティブな心理的機能として Ryff(1989)の提唱した心理的 well-being に着目して親役割達成感の効果を検討した。これらの結果を踏まえて子育て期の親の親役割達成感を支える意味を捉えていきたい。

## 1. 子どもの自己主張に対する親のストレスについて

### 目的

親のストレスについて把握するために、ストレスが生じる状況と子どもの行動について明らかにすることを目的とした。また子どもの年齢、出生順位によって親の感じるストレスや子どもに対する対応に違いがあるのかを検討し、親にとって子どもとのやりとりで感じるストレスの意味を捉えていくことを目的とする。

### 方法

「子どもが自己主張を押し通そうとしたとき」に限定して育児ストレスの内容を自由記述するよう依頼した。2~4歳の子どもを持つ父親93名、母親138名のデータを分析の対象とした。

### 結果

父親も母親も日常的課題場面でストレスが生じていた。ストレスを感じる子どもの行動について父親は生活習慣に関する不従順次いで無理や要求、母親は無理な要求次いで生活習慣に関わる不従順だった。そしてこのようなストレスが生じたとき、親焦点型対応をとっていた。

## 2. 親役割達成感を規定する要因の検討

### 目的

親役割達成感の規定要因として親の個人的特性としての共感性と行動傾向特性としての育児ストレスコーピングを取り上げその効果を明らかにすることを目的とする。

### 方法

育児ストレスコーピング尺度、多次元的共感性尺度、親役割達成感尺度を用いて質問紙

調査を実施した。2～4歳の子どもをもつ親352名（父親155名，母親197名）のデータを分析の対象とした。

## 結果

共感性の4次元と育児ストレスコーピング2次元についてそれぞれ高群，低群に分け親役割達成感への効果を検討した結果，父親のみ共感性とポジティブコーピング，気持ちの想像とポジティブコーピングとの間に交互作用がみられた。下位検定の結果，共感的感心の低群においてポジティブコーピング，ポジティブコーピングの低群において共感的感心，気持ちの想像低群においてポジティブコーピング，ポジティブコーピング高群，低群両群において気持ちの想像の単純主効果がそれぞれ有意であった。また共感性については父親，母親共に共感的感心，個人的苦痛，ファンタジー，気持ちの想像の主効果がみられた。さらに育児ストレスコーピングについては父親，母親共にポジティブコーピング，父親のみネガティブコーピングの主効果がみられた。

### 3. 親の心理的 well-being に対する親役割達成感の効果

#### 目的

親役割達成感が心理的 well-being に及ぼす影響を明らかにし，子育て期の親の親役割達成感を支える意味を捉えていくことを目的とする。

#### 方法

親役割達成感尺度，心理的 well-being 尺度を用いて質問紙調査を実施した。なお，調査対象者は2と同様である。

#### 結果

親役割達成感を高群，低群に分け心理的 well-being の各次元への効果を検討した結果，

父親は環境制御力，人格的成長，人生における目的，積極的な他者関係において，母親は環境制御力，自己受容，人格的成長，人生における目的，積極的な他者関係において親役割達成感 H 群は L 群よりも高くなった。

### 総合的考察と今後の課題

本研究は育児ストレスが生じやすいしつけが始まる時期に焦点を当て，親役割達成感を支えることの重要性を示したと言う点でも意義があるといえる。1において子どもの自己主張に対する育児ストレスの構造は〈親の要求〉と〈子どもの要求〉の対立であることが考えられたことから互いの要求の対立を調整する親のスキルが求められる。2においてはこの時期の親への具体的なアプローチが示唆された。父親の共感性とポジティブコーピングとの交互作用の効果は，親自身の認知的・生理的・行動的なフィードバックシステムにより育児ストレスに適応する父親への支援を検討することの有益性を支持するものであると思われる。3においては子育て期の親の親役割達成感を支える意味が見出された。西田(2000)はある役割による成長・発達には，新たな役割を獲得する上で重要な基盤となり，後の心理的 well-being にも影響性があると指摘している。今回の親役割達成感が心理的 well-being に影響を及ぼしていた結果は，子育てを通して得られる親役割達成感が，子育てによる獲得と喪失の調整を図ることが予測された。つまり子育てを通して親役割の質を高めることは生涯発達の視点から親の発達を促進することにもつながるであろう。したがって，親役割による獲得と喪失の過程や今後の人生の意味づけについても詳細に検討する必要があると思われる。